

国際協調力を持つ環境人材育成のための 教育プログラム開発事業

～環境人材育成に向けた学部・大学院の一貫教育～

公立大学法人
大阪府立大学

大阪府立大学の基本理念

高度研究型大学

～世界に翔く地域の信頼拠点～

環境

地域

国際化



大阪府立大学の環境教育の現状

総合教育研究機構（教養）環境科目

工学部環境科目

生命環境科学部環境科目

理学部環境科目

経済学部環境科目

人間社会学部環境科目

看護学部環境科目

総合リハビリテーション学部環境科目

大阪府立大学の環境教育の将来像

総合教育研究機構における
分野横断型科目・実践型科目

工学部	環境科目
生命環境科	部環境科目
理学部	環境科目
経済学部	環境科目
人間社会学	部環境科目
看護学部	環境科目
総合リベラル	学部環境科目

大学院教育

大阪府立大学の学内・地域環境活動の実践例

～21世紀科学研究機構「資源循環工学研究所」および
「エコ・サイエンス研究所」における活動～

- キャンパス・ゼロエミッション構想
- キャンパス・ビオトープ構想
- サツマイモによる屋上緑化
- キャンパス・エネルギー最適化
- 堺市「さかいエコ大学」への協力
- エコロジー研究所の堺浜への設置

etc.



大阪府立大学の国際活動の実践例

- 学術交流協定締結校：22カ国、61大学
- 交換留学：仁川大学（韓）、シドニー工科大学（豪）、セルジャー・ポントワーズ大学（仏）
- JICA草の根技術協力事業「ベトナム・ハロン湾における住民参加型資源循環システム構築支援事業」



プログラムの概要

一貫教育

学部教育「環境学（副専攻）」

大学院教育「国際環境活動プログラム」

- 環境・生命・倫理
- 環境学と社会科学への招待
- 自然環境学概論
- 環境活動演習
(プレ実践教育)

- 専門科目
- 工学部
 - 生命環境科学部
 - 理学部
 - 経済学部
 - 人間社会学部
 - 看護学部
 - 総合リハビリテーション学部

自治体
コミュニティ
地元企業
NPO

- 国際環境学特論
- 環境コミュニケーション特論
- 国際環境活動特別演習
(途上国での活動の企画・
運営・セミナー開催など)

※当初はベトナム・ハロン湾を
モデル地区とする
(実践教育)

JICA・海外大学・NPO

環境学（副専攻）の全学共通新規科目

● 環境・生命・倫理

- バイオテクノロジーの倫理と環境倫理
- 生命の倫理と家族・社会
- 原子力技術と環境倫理
- 現代科学文明と環境哲学

● 環境学と社会科学への招待

- 環境の社会思想
- 環境と経済
- 環境と経営
- 環境と法

● 自然環境学概論

- 自然環境と生態系
- 人間活動と環境への影響
- 持続可能性と循環型社会
- 環境修復と自然再生

● 環境活動演習

- 環境教育・環境活動の必要性と実例
- 環境活動の企画と他機関との調整
- 環境活動の実施
- 環境活動結果の取りまとめと成果発表

国際環境活動プログラムの全学共通新規科目

● 国際環境学特論

- 世界の歴史・文化・宗教・言語と環境観
- 国際的な環境問題とその解決に向けた取り組み
- 開発途上国における経済発展と環境問題
- 環境を統合した社会経済システムの事例と今後の方向性

● 環境コミュニケーション特論

- 環境に関する基礎英語
- 国際環境活動を実践する国およびその周辺国の歴史と文化
- 国際環境活動を実践する国およびその周辺国の環境問題
- 国際環境活動の模擬演習

● 国際環境活動特別演習

- 国際環境教育・環境活動の必要性と事例の学習
- 国際環境活動の企画と他機関（現地大学など）との連携
- 国際環境活動の実施
- 国際環境活動結果の成果発表（環境学国際交流セミナー）

プログラムで育成を目指す環境人材の素養

学部教育「環境学（副専攻）」 大学院教育「国際環境活動プログラム」

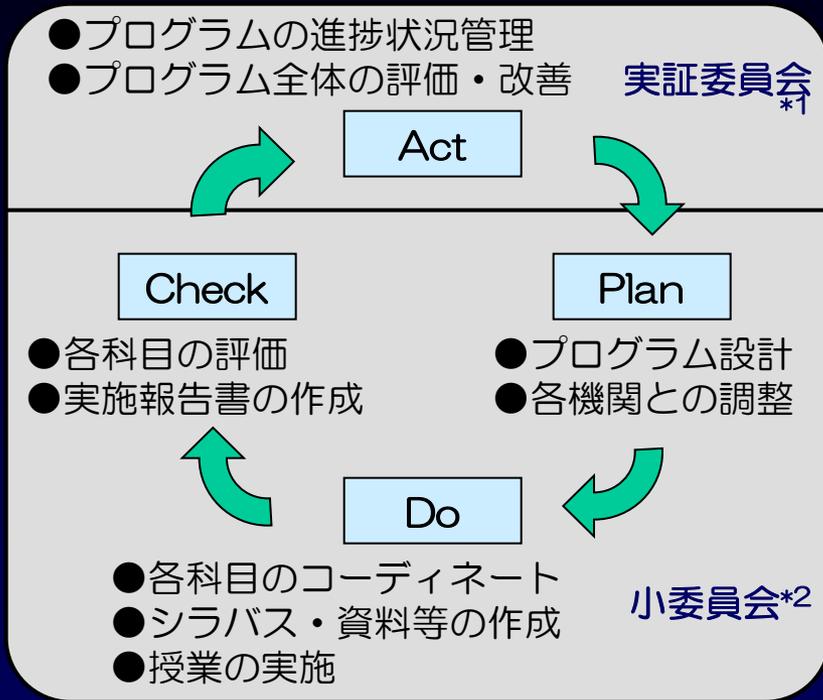
専門性と俯瞰力の両方を身につけた「T字型」の人材

環境と経営を統合できる能力と国際的な強調力を持った人材

環境を統合した社会経済システムへの牽引役を担い、国際的な環境活動を実践することのできるリーダーシップ能力を持った環境人材

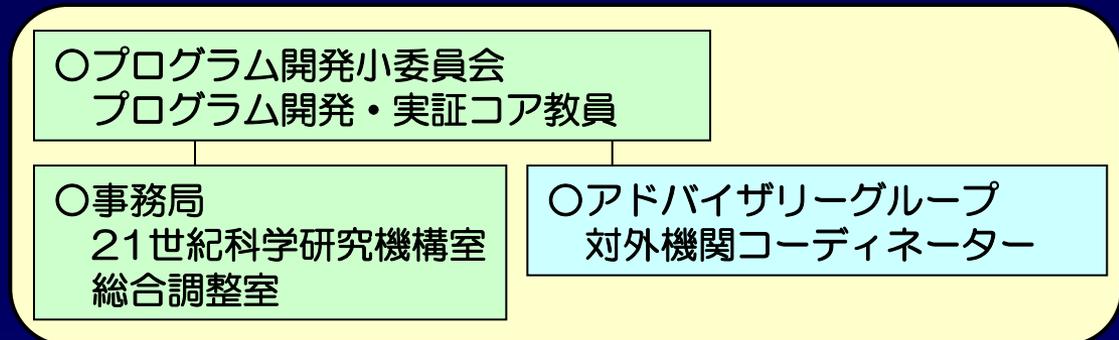
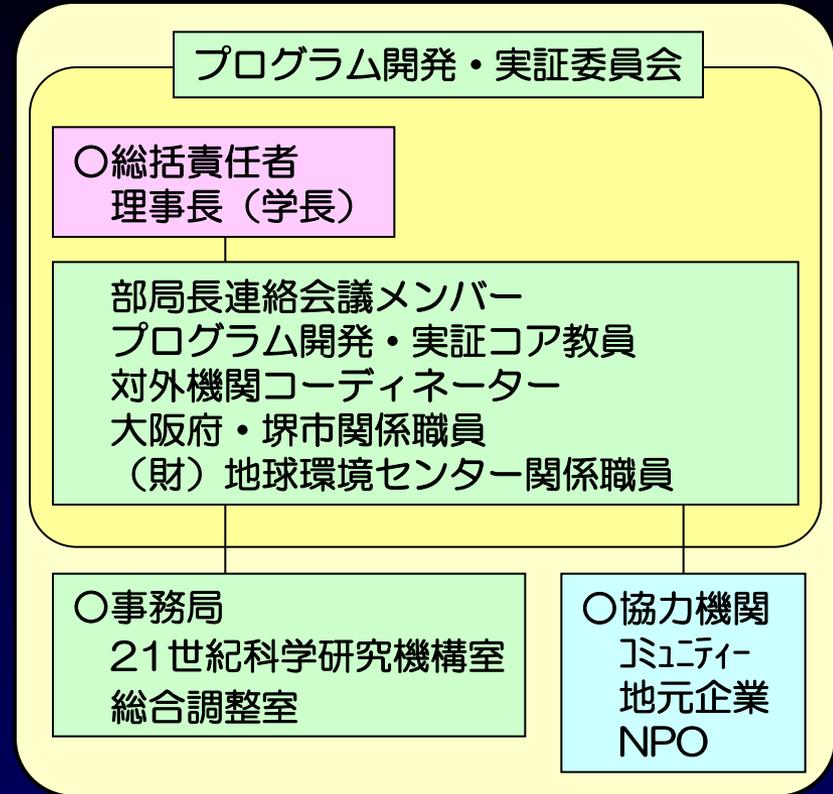
プログラム開発・実証の検証（PDCA）体制

PDCAサイクルの体制



*1 2~3回/年程度

*2 7~8回/年程度



プログラム実施スケジュール

		2009年度	2010年度	2011年度
学部 教育	学内・他機関との調整	→		
	新規講義科目準備	→		
	新規講義科目開講		→	
	新規演習科目準備		→	
	新規演習科目開講			→
大学院 教育	学内・他機関との調整	→		
	新規講義科目準備	→		
	新規講義科目開講		→	
	新規演習科目準備		→	
	新規演習科目開講			→
	他開発途上国との調整			→
共通	開発・実証委員会運営			→
	委員会・報告会開催		●	●
	パッケージ化・マニュアル化			→
	関連機関への情報提供			●

2009年度プログラム実施スケジュール

		7月～9月	10月～12月	1月～3月
学部 教育	学内・他機関との調整	→		
	講義科目シラバス作成	→		
	講義科目テキスト作成		→	→
	演習科目事前調整	→	→	→
大学院 教育	学内・他機関との調整	→		
	講義科目シラバス作成		→	
	講義科目テキスト作成		→	→
	演習科目事前調整	→	→	→
	演習実施国での調整	●	●	●
共通	開発・実証委員会	第1回 ●		第2回 ●
	コンソーシアム準備会	●	●	● ●
	WEBサイト		開設 ●	→
	案内パンフレット	原稿作成・印刷	→	● 配布

2012年度以降の実施体制

○総括責任者
理事長（学長）

○プログラム開発・実証委員会
部局長連絡会議メンバー
プログラム開発・実証コア教員
対外機関コーディネーター
大阪府・堺市関係職員
（財）地球環境センター関係職員

○事務局
21世紀科学研究機構室
総合調整室

高度環境技術人材
育成センター
（仮称）

終